

過去の「春闘特集」寄稿論文一覧

労働組合（運動）や春闘の意義・存在感の希薄化が指摘されるなか、この意義を広く発信するため、本誌では2011年以降、毎年特集で「春闘」を取り上げてきた。本特集は、研究者や連合による論文の寄稿と、産別組織へのインタビューで構成している。論文では、毎年の結果や総括をもとに、今後の労働運動のあるべき方向性や時々のトレンドとなるテーマでご寄稿いただいている。これまでの春闘特集で寄稿いただいた論文は以下のとおりである。

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2011年8月	1012	「構造改革」型春闘を提唱する	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2012年8月	1022	春闘の構造的変化が求められている —2012年春季生活闘争をふりかえって—	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2013年8月	1032	春闘の構造改革への芽は示されたか —13春闘の総括—	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2014年8月	1042	企業社会の変容と春闘 —産別組織ヒアリングからの知見—	上田 眞士（同志社大学社会学部教授）
2015年8月	1052	「人への投資」と2015年春闘 —三つの産別組織（部門）での格差是正の取り組みをめぐる—	上田 眞士（同志社大学社会学部教授）
2015年9月	1053	長時間労働からの脱出は労働組合の力で	中村 圭介（法政大学大学院連帯社会 インスティテュート 教授）
2016年8月	1062	3年周期春闘を提言する —密室春闘から脱却するために—	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2016年9月	1063	春闘における非典型雇用組合員と組合活動	金井 郁 （埼玉大学人文社会科学部 准教授）
2017年8月	1072	ナショナルセンターとしての春闘戦略を期待する	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2017年9月	1073	ヤマト運輸労組の労働時間をめぐる2017年春闘の意義を考える	金井 郁 （埼玉大学人文社会科学部 准教授）
2018年8月	1082	2018年春闘総括の視点 —賃金と労働時間の関係を軸に—	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2018年9月	1083	産別組織における働き方改革の展開 —生保労連を事例に—	金井 郁 （埼玉大学人文社会科学部 准教授）
2019年8月	1092	2019年春闘をふりかえる	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2019年9月	1093	2019春闘から見えてきたもの —「生産性に見合う賃金を」—	禹 宗杭（埼玉大学 人文社会科学部 教授）
2020年8月	1102	2020年春闘総括にあたって検討すべき課題は何か	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2020年9月	1103	組合員の個別賃金決定に労働組合はどう関わっているのか	橋元 秀一（國學院大学経済学部 教授）
2021年8月	1112	2年目のコロナ禍春闘をふりかえる	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2022年8月	1122	「新しい資本主義」のもとでの春闘総括はどうあるべきか	高木 郁朗（日本女子大学 名誉教授）
2022年9月	1123	看護師の賃金と労働組合の取り組み	金井 郁 （埼玉大学人文社会科学部 教授）
2023年8月	1132	春闘の意義と今後の課題 —2023年を真の転換点とするために—	玄田 有史 （東京大学社会科学部 教授）
2023年9月	1133	インフレ下の春闘 —非正規労働者の賃金に注目して—	金井 郁 （埼玉大学人文社会科学部 教授）
		企業規模間賃金格差の是正に向けた 労働組合の取り組みと課題	李 旼珍（立教大学社会学部 教授）
2024年9月	1142	2024春闘の焦点と持続的な賃上げに向けた課題	山田 久（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント 研究科 教授、国際経済労働研究所 理事）
2024年10月	1143	ジョブ型賃金制度、人的資本経営と春闘	山崎 憲（明治大学経営学部 准教授）

※ 敬称略。執筆者の肩書きは、執筆当時のものである。